

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文)) 1.				
(著書(和文)) 1. Greening Up the World: 地球環境と 人々の暮らし	共著	2002年1月20日	成美堂	大学生向け英語テキスト
2. BBC Short Clips on DVD: やさしい英語 で学ぶBBCドキュメ ンタリー	共著	2007年1月20日	成美堂	大学生向け英語テキスト
3. Welcome to BBC on DVD: BBCドキュメン タリーの世界へよう こそ	共著	2009年1月20日	成美堂	大学生向け英語テキスト
4. 「Challenging BBC on DVD: BBCドキュ メンタリーに挑戦」	共著	2012年1月20日	成美堂	大学生向け英語テキスト
5. Attainable English Expression II	共著	2018年2月10日	第一学習者	高校生向け英語検定教科書
6. Message Delivered <Lower Intermediate>	共著	2020年3月20日	南雲堂	大学生向けテキスト
7. Creative-English Communication I	共著	2022年2月10日	第一学習社	高校生向け英語検定教科書
8. Creative-English Communication II	共著	2023年2月10日	第一学習社	高校生向け英語検定教科書
(学術論文(欧文)) 1.				
(紀要論文) 1. The Characteristics of Duration for English Voiceless Fricatives Produced by Japanese Students	単	2000年3月25日	『人間科学』17(2)	日本人学習者が発音する4つの英語無声摩擦音について、継続時間の観点から、英語母語話者のものと比較・検討を行った。日本人学習者の発音と英語母語話者の発音とでは、影響される音声環境が違うこと、日本人学習者には継続時間の観点からも苦手な発音があることなどが明らかにされた。

2. 日本人学習者の発音に見られる英語母音の音響的特徴	単	2002年10月25日	『人間科学』20(1)	日本人英語学習者が発音する英語と日本語を波形としてコンピュータに取り込み、それぞれの母音についてLPC分析を行った。これにより、日本人が発音する英語の各母音が英語本来の母音とどのような相違点があるのかを明らかにした。
3. Acquisition of English voiceless stops by Japanese college students	単	2002年3月25日	『人間科学』20(2)	日本人学習者が発音する4つの英語無声摩擦音について、継続時間の観点から、英語母語話者のものと比較・検討を行った。日本人学習者の発音と英語母語話者の発音とでは、影響される音声環境が違うこと、日本人学習者には継続時間の観点からも苦手な発音があることなどが明らかにされた。
4. 日本人学習者による英語母音の産出と知覚—/i/と/I/について	単	2003年10月25日	『人間科学』21(1)	日本人英語学習者を対象に、英語の/i/と/I/の発話実験および知覚実験を行った。これにより、日本人英語学習者が継続時間とフォルマント周波数のいずれの音響キューに基づいて2つの音を区別するのかを明らかにした。
5. The Perception of Synthesized English /i/ and /I/ by Japanese College Students	単	2004年10月25日	『人間科学』22(1)	合成音声を用いて、日本人英語学習者の英語音/i/-/I/の判別とフォルマント周波数との関係について実験・分析した。多くの被験者は英語母語話者とは正反対の知覚傾向を示しており、そのことについて、英語音韻システムの習得過程の観点から説明を試みた。
6. Robustness of Nonnative /i/ and /I/ Categories in Perception: Three-alternative Identification by Japanese College Students	単	2005年10月25日	『人間科学』23(1)	/i/-/I/-/ɛ/の合成刺激音声を用いて、日本人英語話者に対して同定テストを行った。これにより、/i/-/I/の同定テストにおいて、英語母語話者と同じような同定方略を取る被験者については、/i/と/I/の範疇が強固に確立されていることを明らかにした。
7. The perception of sharpness, length, and pitch of vowels: How Japanese college students perceive English /i/ and /I/ without a phonological decision.	単	2007年10月25日	『人間科学』25(1)	日本人英語学習者の/i/-/I/同定テストにおける音響・音声レベルの影響を明らかにするために、/i/-/I/合成刺激音を「鋭さ」「長さ」「高さ」の観点から、どのように知覚しているのかについて、調査した。結果から、同定傾向の異なる被験者間で感覚の差異は見られず、これらの要素が同定テストに影響を及ぼしている可能性は低いことが明らかになった。
8. The influence of L1 vowel categories on the identification English vowels	単	2015年3月31日	『常磐国際紀要』19	英語の[i, ɪ, e, æ, ʌ, ɑ, ɔ, ʊ, u]の母音について、日本人英語学習者が英語の発音記号を基にして同定することを求められた場合の同定傾向を実験・調査した。日本人学習者は、日本語で同一の音素として考えられる個別の英語音声について、区別することができることを明らかにした上で、それらの現象が同化モデルの範囲内で説明できることを示した。

9. Interlingual Identification of English Vowels by Native Japanese Speakers.	単	2017年3月31日	『常磐国際紀要』21	日本人英語学習者が英語母音を日本語の音韻体系を基にカテゴリー判断した場合の特性を、実験により明らかにした。
10. 学習指導要領が示す小学校英語教育の特徴	単	2021年3月20日	常磐大学教職センター	平成29年度告示学習指導要領の「外国語活動」と「外国語」を精査し、求められている小学校英語教育の内容と教員像を明らかにした。学級担任は英語教育の専門的知識や教授技術、比較的高い英語力が求められていることを指摘した。
(辞書・翻訳書等)				
1. ワードパル英和辞典	発音校 閲・執筆	2001年1月1日	小学館	
3. プロGRESSIVE英和中辞典	発音校 閲	2003年1月1日	小学館	
4. 応用言語学辞典	執筆	2003年4月24日	研究社	
5. Attainable English Expression II Teacher's Manual	執筆	2018年4月1日	第一学習者	高校生向け英語検定教科書の教授用資料
6. Creative-English Communication I Teacher's Manual	執筆	2022年4月1日	第一学習者	高校生向け英語検定教科書の教授用資料。p. 45～70を執筆。
7. Creative-English Communication II Teacher's Manual	執筆	2023年4月1日	第一学習者	高校生向け英語検定教科書の教授用資料。p. 186～226を執筆。
(報告書・会報等)				
1. 小学校における英語教科化の可能性	共著	2009年3月25日	人間科学	2005年度採択の学内課題研究について、報告を行った。
(国際学会発表)				
1.				
(国内学会発表)				
1. DVD機能を活かした一般教室教材：BBCドキュメンタリーをDVD教材に	単独	2008年9月12日	大学英語教育学会	2007年、2009年に出版した英語教材について、製作趣旨や特徴について説明を行った。
(演奏会・展覧会等)				
1.				
(招待講演・基調講演)				
1.				

(受賞(学術賞等)) 1.						
研 究 活 動 項 目						
助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等 の別	種 類	採択年度	交付・ 受入元	交付・ 受入額	概 要
(科学研究費採択) 1.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1.						
(共同研究・受託研究受入れ) 1.						
(奨学・指定寄付金受入れ) 1.						
(学内課題研究(共同研究)) 1. 「国語科授業の各学 年週1時間増加を伴 う水戸市幼・小・中 英会話教育特区」研 究による英語教科化 の可能性の探求  2. 経営学科におけるプ レイスメント・テスト の有効性：語彙テ ストとCASECの比較 から	代表       分担者	—	2005年度      2008年度	—	2,150,000 円      624,000円	水戸市や他県で先進的な英語教育を行っている小学校を訪問し、授業の録画、授業担当者との面談、自治体担当者との意見交換などを通して、英語教科化の可能性について調査・分析を行った。  常磐大学国際学部経営学科のプレイスメント・テストとして、語彙テストとCASECのどちらが有効かについて検討することにより、今後の国際学部経営学科におけるプレイスメント・テストやクラス分けのあり方を探索した。
(学内課題研究(各個研究)) 1.	—	—		—		
(知的財産(特許・実用新案等)) 1.	—			—	—	